

校長通信㉓

養護学校体育連盟バスケットボール大会

今夏は、バスケットボールのワールドカップが沖縄も会場として開催されており、中学時代からバスケットボールに携わってきた私にとっては、試合を見ているだけで一喜一憂してワクワクした気持ちになっています。特に、日本チームが世界の強豪相手に善戦し、互角に戦っている姿を見ると体格では劣っていてもチーム力で対抗できる日本ならではのバスケットボールに感動しています。実は、長野県下の養護学校も、4年ぶりに養護学校体育連盟バスケットボール大会が塩尻市で開催されました。県下の養護学校では、高等部を中心に部活動が行われており、令和元年度までは毎年バスケットボール大会が開催されてきました。コロナ禍で実施ができませんでしたが、部活動をしている生徒たちはこの大会をとて楽しみにしていました。飯田養護学校からはチャンピオンシップの部とフレンドシップの部に1チームずつが参加しました。チャンピオンシップは2試合、フレンドシップは3試合行い、それぞれ1勝することができました。大会を見ていて、選手の皆さんが一生懸命ボールを追いかける姿や敵味方関係なく、いいプレイには自然と拍手や歓声が出たり、接触して転倒してしまった選手に手を差し伸べたりする姿など、スポーツを通しての感動体験ができたことが何よりの大会の成果だと思います。養護学校体育連盟主催の大会は今のところバスケットボールだけですが、卓球やバドミントンなど各校では様々な部活動が行われているので、こういった交流が他のスポーツにも広まってくると参加できる選手も増え、スポーツを通しての感動体験ができる機会が増えるのではないかと思います。

また、大会に合わせて行われていた各校の芸術作品(書道や絵画、折り紙など)の展示も再開できれば、スポーツと文化の発表の場となり、様々な生徒の「得意」を保護者や多くの方に見ていただける機会になっていくことを願っています。



